

群馬県山岳連盟

〒371-8570 前橋市大手町1-1-1

群馬県庁観光物産課内

TEL 027-223-1111 内線3151

編集発行人

群馬岳連編集部 岡安茂能

印刷所 朝日印刷工業(株)



平成十四年度 群馬岳連総会報告

群馬県山岳連盟

会長 星野光

群馬県山岳連盟平成十四年度総会が、五月十八日(土)午後六時から前橋市の上毛会館において、五月定例理事会に引き続き開催された。

本総会は役員改選期に当たっており、先に理事会において推薦された平成十四・十五年度役員が報告され、拍手多数によって承認された。

星野光会長は引き続き留任、副会長には留任の田中成幸・大沢清岡氏に加えて、勇退した富山真氏にかわり羽野順一氏が就任した。また、監事は竹山繁男氏が留任、新たに水野金太郎氏が就任した。

理事会をこれまでリードしてきた八木原啓明氏は、日本山岳協会の専務理事並びに国際部国際交流委員長就任を機として理事長を辞し、常任理事として岳連会計を担当することとなり、かわって名塚秀二氏が新しく理事長に就任した。また、副理事長には佐藤光由・小林達也両氏が就任。更に、編集部長に岡安茂能氏、国体部長に赤松久宇氏、クライミング部長には堀越利通氏が新たに任じることになった。

尚、総務部長兼事務局長・女屋等志氏、遭難対策部長・松永幸雄氏、登山指導部長・阿部源氏、海外登山部長・後藤文明氏、自然保護部長・小泉俊夫氏、事業部長・長谷川勇氏はそれぞれ留任した。

議事に先立って星野会長が挨拶に立ち、難しい時代にあつて組織を固めるには、責任ある者がそれぞれの持ち場できちんと仕事をすることだと激励した。

議案審議は、岳連規約に従つて議長を会長が担当して進められた。始めに、平成十三年度事業報告を、女屋事務局長が、総会議案書に従つて総務部・編集部・遭難対策部・登山指導部・国体部・海外登山部・自然保護部・事業部・クライミング部の各部にわたつて説明を行い、拍手多数で承認された。

続いて平成十三年度会計収支決算報告並びに平成十三年度基金調書報告が会計担当の富山前副会長によつて説明され、また、第五十六回国体関東ブロック大会山岳競技会決算報告が女屋事務局長によつて説明され、これらについて竹山監事から適正に処理されていたとの監査報告がなされ、決算書・

基金調書通りに承認された。

次に平成十四年度事業計画について女屋事務局長から提案され、引き続き富山前副会長から提案された平成十四年度予算並びに補助金等の内訳案とともに一括審議された。これら上程された議案は議案書通りに承認が行われて、総会の議事を終了し閉会した。

《平成十四年度主要事業計画》

一、遭難防止活動の推進

谷川岳を中心とした地域の遭難防止のためのパトロールの実施、救助活動および救助隊の技術の向上のため訓練を行う。

二、国体への参加と選手強化

第五十七回国体山岳競技関東ブロック大会(千葉県)への参加と、よさこい高知国体(高知県)山岳競技会における好成績達成を目標とする選手強化を推進する。

三、日山協主催行事等への参加と各会の交流

日山協行事等に参加するとともに、各会との交流を深め、研修会等を通じて技術の向上、岳人としてのモラルの高揚を図る。

四、美化活動等市民運動への参加

尾瀬のゴミ持ち帰り運動及び谷川岳等の美化活動等の推進に協力する。

五、岳連会報の発行

『山岳ぐんま』の発行を通じ、会員相互の結びつきと啓蒙を図る。

六、海外登山の計画

第九次群馬岳連ヒマラヤ登山を計画する。

七、第十三回山田昇記念杯登山競争大会の開催

群馬が生んだ登山家、山田昇氏の業績を後世まで伝えるため、登山の基本である体力を競い合い、登山の啓蒙・普及・発展の一助とする登山競争大会を開催する。

期日 十月五日(六)日(土)日

会場 武尊山(利根郡川場村)

八、第十八回群馬県民の日記念事業「第二十五回県民登山大会」の開催

「県民の日」制定記念事業の一環として、一般県民から参加者を募集し、県民登山大会を開催する。

期日 十月二十七日(日)

会場 子持山周辺

九、各種研修会及び講習会の開催

指導員会及び遭難救助隊が主管して、一般会員を対象に登山技術講習会を開催し、併せて指導員の資質の向上を目的として研修会を開催する。

十、岳連事業収入の確保

岳連の事業・事務を円滑に推進するため、平成十五年版山岳写真カレンダーの作製・販売などの事業を行い、自主財源を確保する。

(次頁へつづく)

十一、スキー・山岳博物館資料調査の推進

利根郡水上町に建設が計画されている「スキー・山岳博物館」に展示する山岳資料の調査を推進する。

十二、二〇〇二年「国際山岳年」の啓発

山は形も大きさも様々である。赤道から極地まですべての大陸に、高さも違い、様々な気象、生態系のなかに存在している。何千年にもわたり、貴重な資源の源泉として、水、エネルギー、生物の多様性を育んできた。また、文化とレクリエーションの中心としての役割も担っているが、山岳地域では急激なグローバル化、都市化、大規模観光開発が進み、山岳地域社会の生活や資源が脅威にさらされ、山岳地域は、世界規模で資源の枯渇、地域経済の衰退および環境劣化の問題に直面している。

国連では、山岳地域の生態系維持の重要性に関する認識を深めるため、二〇〇二年を国際山岳年と認定し、国連食糧農業機関が中心となり、政府、非政府機関、他の国連機関と連携を進めている。国際山岳年は、山岳地域の環境保全および持続可能な開発を促進することで、山岳・低地社会の福利を発展させることを目的としている。このため、岳連主催行事に、「国際山岳年」の冠を付けて啓発活動を推進する。

救助訓練と救助隊編成

群馬岳連遭難対策部長

松 永 幸 雄

平成十三年度の三回目の救助訓練が三月九・十日、妙義ロックガーデンで開催されました。

今回は岳連会員の他に、群馬県山岳連盟の救助訓練に参加させてくれということで、群馬県山、高崎広域消防、栃木の広域消防が参加し、三十名を超える参加者がありました。

前日の九日の晩に松井田山岳会のお骨折りで妙義湖畔のボート小屋をお借りして交流会を持ち懇親を深めました。

今回の訓練の目的は、日頃救助隊として組織的な救助活動に対処する訓練を実施してきましたが、実際の登攀で二人・三人で事故に遭った時、どのように対処したら良いのかというセルフレスキューの方法を確認し、今後の隊としての活動をよりレベルの高いものにしていくというものでした。

昨年の秋の滋賀で行なわれた日山協の岩場でのレスキュー講習会で主任講師をした、副隊長の町田君が中心となり、ロックガーデンで、自己脱出、負傷者のプルアップ、プルダウン等の訓練を実施しました。時間不足でしたが、参加者は

それぞれ得た知識を持ち帰り、今後の活動に生かしてくれるものと思います。

平成十四年度の救助隊は左記の編成となりました。

顧問 西山年秋、隊長 松永幸雄、副隊長 小暮文彦、町田幸男、隊員 梁瀬佐市、清水福治、山田重之、綿貫剛(沼田)、堀越利通、森戸健太郎(登高会)、内山栄、茂木茂昭、柳田淳、角田守(前橋)、清水裕千(むすび)、小沢勝(独峰)、剣持典之(境町)、阿久津幸弘、金子茂敏、武井幸一、長山栄二(太田)、松永英明(ミヤマ)。



岳連講習会 レポート

群馬岳連指導委員会

吉 田 直 人

冬山登山講習会

平成十四年三月十七日(日)、谷川岳土合にて冬山技術講習会を開催、二十八名が参加した。講師は都岳連の渡辺輝男、太田山岳会の町田幸男の両氏にお願いし、今回は雪崩についての講習を実施した。渡辺氏の「雪崩とは」から始まり、「誘発する要素は」、「どれくらいの傾斜が出やすいか」など、初心者でも分かりやすい説明が行われた。また、弱層テストでの判断基準、ゾンデの使い方(実際に人間を突いた時の感触など)についても話され、参加者から大変勉強になったとの声があった。

もあるが、なかなか思うように捜し出せず、時間がかかり過ぎたりした。改めて雪崩の恐ろしさを、受講者一人一人感じたようであった。

雪上技術講習会

今年度最初の講習会である雪上技術講習会は、四月二十一日(日)小雨降る中、谷川岳マチガ沢にて、二十五名が参加して実施された。講師は、昨年同様、岳連副会長で(社)日本アルパインガイド協会の田中成幸氏と、岳連指導委員会委員長の阿部源氏。田中氏に中級者を、阿部氏に初級者を対象に指導して頂いた。

マチガ沢出合に集合し、二班に分かれ、講師の指示で行動する。二班とも用具(ピッケル、アイゼン)の各部分の名称と用途等の説明が行われ、ストレッチを行った後、移動。S字手前の適当な場所を選び、初級は、主に雪上歩行、



用具の基本的な使い方、滑落停止を習う。中級は、確保技術を中心に、デッド・マン、ピッケルを使用したアンカーのとり方、スタンディングアックスピレ、大阪方式、タイトロープピレ、クレパス地帯でのロープのつけ方等、盛り沢山のメニューを、田中氏が熱く指導してくれた。雨天で他パーティが早々に切り上げる中、参加者も大変前向きな姿勢で講習を受け、予定通り終了することができた。

各講習会に参加する山岳会が、毎回同じ会である傾向になってきている。せっかくの新しい技術を学べる場としての講習会に参加しないのはもったいないと思う。不参加の理由には会員不足もあると思われるが、各山岳会から一人でも二人でも参加してくれればいいなどと思う。

愚痴っぽい話

県高校総体

群馬県のキャンプ場

今年度の県高校総体登山大会が、五月十日・十二日、榛名山を会場に行われた。毎春の県高校総体登山大会は、榛名山、赤城山、子持山の三会場をローテーションして実施しているが、榛名山を会場とする大会は、毎年の事ながら、難題山積の大会となる。

「県営榛名湖少年キャンプ場」、れつきとした「県営キャンプ場」であり、「登る榛名のキャンプ場」である。

しかし、そのキャンプ場の水場やトイレは「貧相」としか言いようがない。テントサイトも水はけが悪く、今回、大雨のため浸水したテントが数張りに及んだ。管理棟もない。贅沢な施設を望んでいるわけではない。ただ、榛名富士を挟んで豪華な県営のオートキャンプ場がある。どこかおかしい。ただ、そう思うだけである。

関東高校登山大会で近隣都県のキャンプ場を利用することが多い。その度に思うことは、「山岳群馬」の名にふさわしいとはいえない、群馬のキャンプ場の実状、山小屋の実状である。繰り返しにな

高体連登山専門部委員長

小林 達 也

るが、決して贅沢な施設を望んでいるわけではない。ただ、群馬の県営キャンプ場の多くは「貧相」としか言いようがない。赤城山の「県営キャンプ場」はどうか、谷川岳はどうか、尾瀬はどうか。国体クライミング競技

部活動としての山岳部

今春から国体山岳競技にクライミングが導入され、かたや踏査競技は葬り去られた。競技の客観性、公平性という点からすれば格差が是正される方向なのだろう。しかし、新たな不公平さ、人為的に作り出された不公平さが生じているのも事実であり、高校山岳部顧問の立場からしても、クライミング

(次頁へつづく)



の競技化は早計ではなかったか。

毎春、一年生を勧誘するその時、山岳部の魅力を並べ立てる。何より、自然の山が山岳部のフィロソフィーであること、「山懐」に抱かれての豊かな体験、それが売り物である。そして、私たち顧問が教員である以上、山岳部の活動は教育の一環であって、目指すは「安全で楽しい登山」である。無論、そこからの発展は望むところであり、競技は競技として割り切るべきであらうし、競技を通して得られる達成感も大いに「教育的」である。ただ、クライミングは高校山岳部の活動のバリエーションの一つであって、高体連登山専門部の活動の中核とは成り得ない。

高体連登山部指導者講習会

～再興を目指して～

高体連では六月、九月、二月の年間三回、指導者講習会を行っている。二月の講習会は、三月に富士見峠周辺で行われるリーダー冬季講習会のコース調査を兼ねているので、限られた内容になってしまっている。六月、九月の講習会は指導講習委員会が内容を吟味し、充実した講習会となっている。

しかし、ここ十年、講習会への参加者が減少し、固定化している。盛時には三十名以上の参加者を見たが、今は半減し、十五名程度である。何が原因なのだろうか。

生徒を引率しない平日の出張に

「出にくい」学校現場の実状がある。詳しいことには触れないが、とにかく、「参加したくてもできない」実状が確かにある。それならば週休二日制になったことだし、土・日に行えばいいだろうという指摘もあるだろうが、週休二日制の導入は、むしろ、学校現場をさらに多忙にし、今や土・日に生徒との山行を計画することも困難になりつつある。

心配なのは、それまで中心となっていたベテランの顧問が突如、転勤となり、その後任を命じられた、全く登山の経験がない顧問である。指導する自信も持ちえず、誰に相談することもできず、責任は重い。指導者講習会に参加したいと思っても授業を苦勞して交換しなければならぬ。「できることなら早く交代したい」。そう思うのは人情であらう。

指導者講習会への出張を「何う」ではなく、「命じられる」、そうならなくてはならない。「できることなら早く交代したい」。そう思うのは人情であらう。



はならないものだろうか。生徒を

引率する上で必要とされる、あるいは、事故の発生を未然に防ぎ、万が一の時にも適切な対応を取り得る知識・技術習得の研修を行う、そういう場への顧問の参加を積極的に管理職が働きかける、そういった配慮を望みたい。

なりたての顧問が生徒達と「山懐」に抱かれての豊かな体験を共有し、顧問の醍醐味を実感する、ひいてはそれが高校山岳部の発展に結びつくと思うのだが。

事業部の今後の計画について

群馬岳連事業部長 長谷川 勇

一九八八年以来、岳連及び関係者の方々の理解と協力のもと、製作・販売を続けておりますカレンダーも、岳連事業として定着して

まいりました。これまで大きな問題や赤字等もなく現在に至っておりますが、選考、発注、販売依頼、収支報告で一年が過ぎ、直ぐ次の

製作準備にはいるというパターン繰り返し、カレンダーの仕事以外については時間的には現在何もできない状態であり、何れは他の仕事も出てくることを考えますと、効率的なカレンダーの製作販売とともに、メンバー構成等々前向きに検討をしていく時期に

来ているかと思えます。大半は岳連を主体に県内の山岳関係者の方々を通して売り捌いて

二〇〇〇年九月水上町で行われた日本登山体育大会には、全国から参加された岳人への記念品の一つに加えていただき、群馬の山のPRも出来たことと思います。今後

も地道ながらもこの事業は続けて行く予定ですが、そのためには岳連会員の方々にこれまで以上の作品応募の協力と共に、是非とも販売・購入にもご理解をいただきました

レンタルが出来るように進めたいと考えております。表紙を含め、一月から十二月までの十三枚としますが、作品の撮影時期が片寄ることが多く、毎回選考に苦勞をしますので、オールシーズンの作品にご協力いただき、基本的には岳連会員の応募としますが、内容充実という観点から岳連外からも広く協力を得て新鮮なものが得られればと考え、岳連関係者を通しての紹介も併せてお願いいたします。

採用させていただきました作品につきましては、四つ切りにしました原画、カレンダー三部の他、今回からは五千円相当の商品券を謝礼に進呈することが理事会で認められましたので、より多くの応募を期待しております。ご協力いただきましたましたネガは責任をもってお返しいたしますが、カレンダーの仕上がり前後になりますので宜しくお願いいたします。

今後とも事業部に対するご理解をお願いいたします。

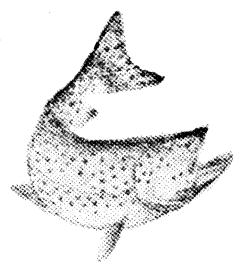


味の店 ドライバーレストラン

一本松さかい

利根郡白沢村（国道120号線） TEL.0278-53-2053

片品川国際マス釣場



星 野 水 産

〒378-0013 沼田市新町230-1

TEL 0278-24-1398

味のりんご

アンナプルナりんご園

沼田市上久屋町1231 TEL・FAX 0278-23-6802

Annapurna



墓 石 ・ 灯 籠 専 門 店

高 橋 石 井

高崎市石原町1497 TEL (027) 323-8867
工場・高崎市八幡町1245-67 TEL (027) 343-0270

群馬むすびの会会員

電話、弱電工事

プ モ リ 電 設

〒379-2223

佐波郡東村東小保方252

☎ 0270-62-2012



(有) 山とスキーの店 石 井

DreamBOX

伊勢崎市宮子町1819-1

TEL 0270-21-8025

FAX 0270-21-8026

本店 (山の談話室 楼蘭)

伊勢崎市中心町18-8

TEL 0270-25-0272

T. H. I. CORPORATION

TEL:03(5245)0511
FAX:03(5245)0510
(株) ティ・エッチ・アイ

登山隊遠征

- ガモフバッグ、パルスオキシメーターのレンタル、販売
- 隊荷輸送
- 隊荷梱包用資材

個人手配からフルパッケージ・ツアーまで海外旅行に関するすべてをお手伝いします

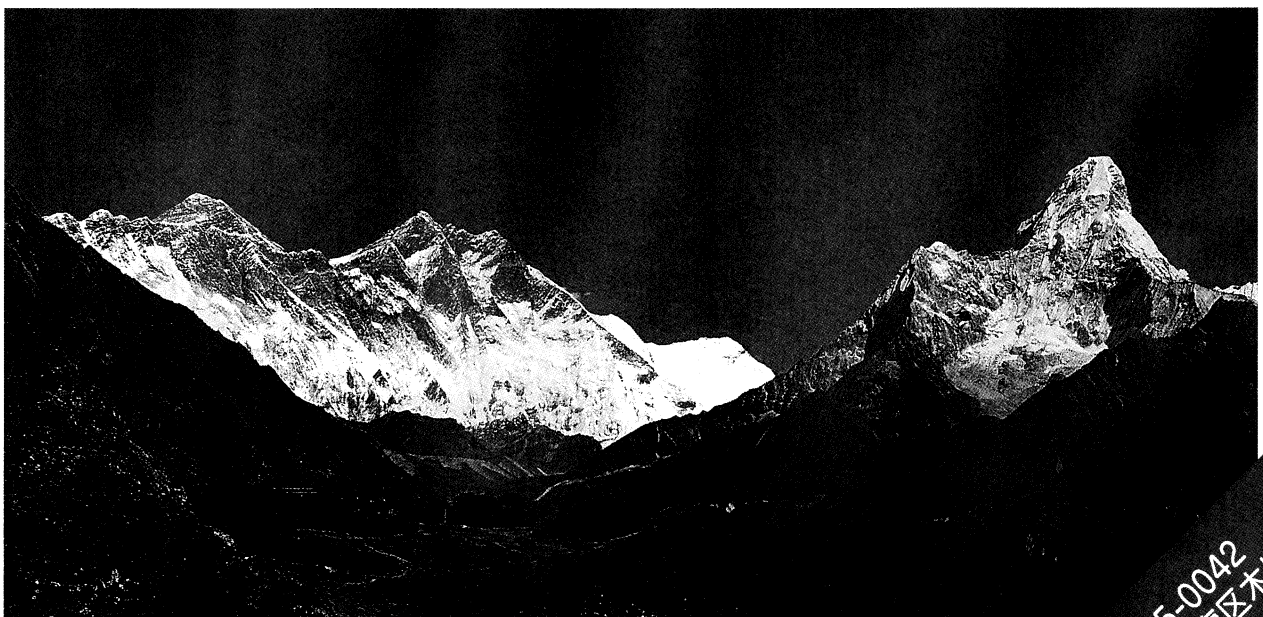
ディスカウント航空券

- 世界各地への航空券
- ホテル、交通機関の手配
- ビザ取得代行

トレッキング

- ネパール、インド、ヨーロッパ・アルプスを始め世界各地でのトレッキング、海外登山

何でもお気軽にご相談ください



T. H. I. CORPORATION

〒135-0042
東京都江東区木場
2-5-7
KHビル7F



萬屋建設グループ

歴史、信用、技術をもって、21世紀の人間と環境を考える。



総合建設業 萬屋建設株式会社

会 長 星 野 光

■本社 群馬県沼田市上原町1756-2 TEL 0278-23-4648(代) FAX 0278-24-3371
■支店 東京都豊島区東池袋4-2-7 TEL 03-3985-7631 FAX 03-3982-5964

群馬県公安委員会指定 (公認)

株式会社 沼田自動車教習所

群馬県沼田市横塚町1088-13 TEL 0278-24-4811 FAX 0278-23-7960

昭和シェル石油特約店 有限会社 丸萬石油

群馬県沼田市上原町1756
TEL 0278-23-0018 ☎ 0120-41-0018

日本工業規格表示許可工場 建設生コン株式会社

本 社 沼田市上久屋2338-1 TEL 0278-24-3111
大楊工場 利根郡利根村大字大楊187 TEL 0278-56-3682

総合建設業 株式会社 鈴木工業所

群馬県沼田市上久屋1162-5
TEL 0278-22-2846 FAX 0278-23-6233

マンション 萬栄ビル株式会社

東京都豊島区東池袋4-2-7
TEL 03-3971-3433 FAX 03-3982-5964